



Pure 純 No.211 Pacific パ Sep.2020

純パの会会報『純パ』第211号

2020年9月26日発行 / 発行:純パの会

球音を楽しむ毎日・・・ コロナ禍のプロ野球観戦事情

岩河 正剛

今年初めから世界的に大きな被害と混乱を招いている新型コロナウイルスの発生と感染。プロ野球界も当然大きな影響を受け、当初のスケジュールが大幅に変更になってしまった。プロ野球ファンとしては本当に残念な事このうえないが、それでも6月19日に両リーグ一斉開幕にこぎつけ、その後もなんとか大きな問題もなく運営、興行ができています。そのおかげで我々プロ野球ファンは、毎日をほぼ満足に過ごせている。

これには各関係者の方々の並々な努力に心から感謝したい。

さて、そのような中でプロ野球興行だが、従来とは大きく異なることがある。それはご承知の通り「応援ができない」ことである。当初無観客試合で行われてきた興行も、7月上旬からは5000人を上限(※)に観客の入場が許可されたが、さまざまな厳しい規制の中での入場許可であるので、それが厳しい！と感じているファンはけっこういることだろう。

従来、何回も野球場に通い詰めるファンの楽しみは、「現地(野球場)で好きなチームを応援すること」であるからだ。各々の好きなチームのユニフォームやグッズを身につけ、応援団の指揮や場内の演出に従って各選手の応援歌を歌い(場合によっては振り付けもして)、さらにチャンステーマを歌い、得点すれば、周りのファンとハイタッチ！試合に勝ったら勝ったで、試合終了後は外野スタンドを中心に応援の二次会……。それらが今季はすべて禁止なのだ。だから、応援を楽しみに来ているファンにとっては、現状が苦痛である、というのが偽らざる気持ちだと思う。

そのような現状は理解しつつも、今季は新たな楽しみができた。それは「プレーの音が聞こえる」ことだ。スタンドの過度な応援の音がない代わりに、選手たちのプレー中の音がたくさん、それもはっきりと聞くことができる。特に代表的なのがピッチャーの投げた球がキャッチャーミットに収まる音とバッターの打球音。本当にはつきりと聞こえる。それも普段聞くことのできない独特で強烈な音だ。このような音は素人がプレーしていてももちろん聞こえるのだが、プロの選手の手音の迫力はやはり違う。その凄い音を毎回聞くたびに、あらためて「やはりプロ野球選手はすごい」ということを認識させられる。いや、尊敬の念と言ったほうがいいかもしれない。

さらに新たな発見もある。それは打球がフェンスを直撃する音や、ホームランボールが外野スタンドに直撃する音だ。特に外野スタンドには極力観客がいないので、すべて外野スタンドの椅子か通路に直撃する。その「ドスン！」というなんとも独特で大きな音がいい。

元来、自分の野球観戦スタイルは、応援よりも各選手たちのプレーを注目して見ているので、このようなご時世の中失礼かもしれないが、自分にとっては、今のところ満足した気持ちで見ることができている。まさに「球音を楽しむ毎日」である。

しかしながらリピーターとしてスタンドの多くを占めるファンの楽しみは応援であると思うので、来年には従来の観戦スタイル&応援スタイルに戻ってほしい、と願っている。球音は楽しみたいが、それが現在の日本プロ野球の風景であるから。

【※編集担当注】

プロスポーツにおける入場者数の制限については、9月19日から最大で会場収容人数の50%までに緩和された。